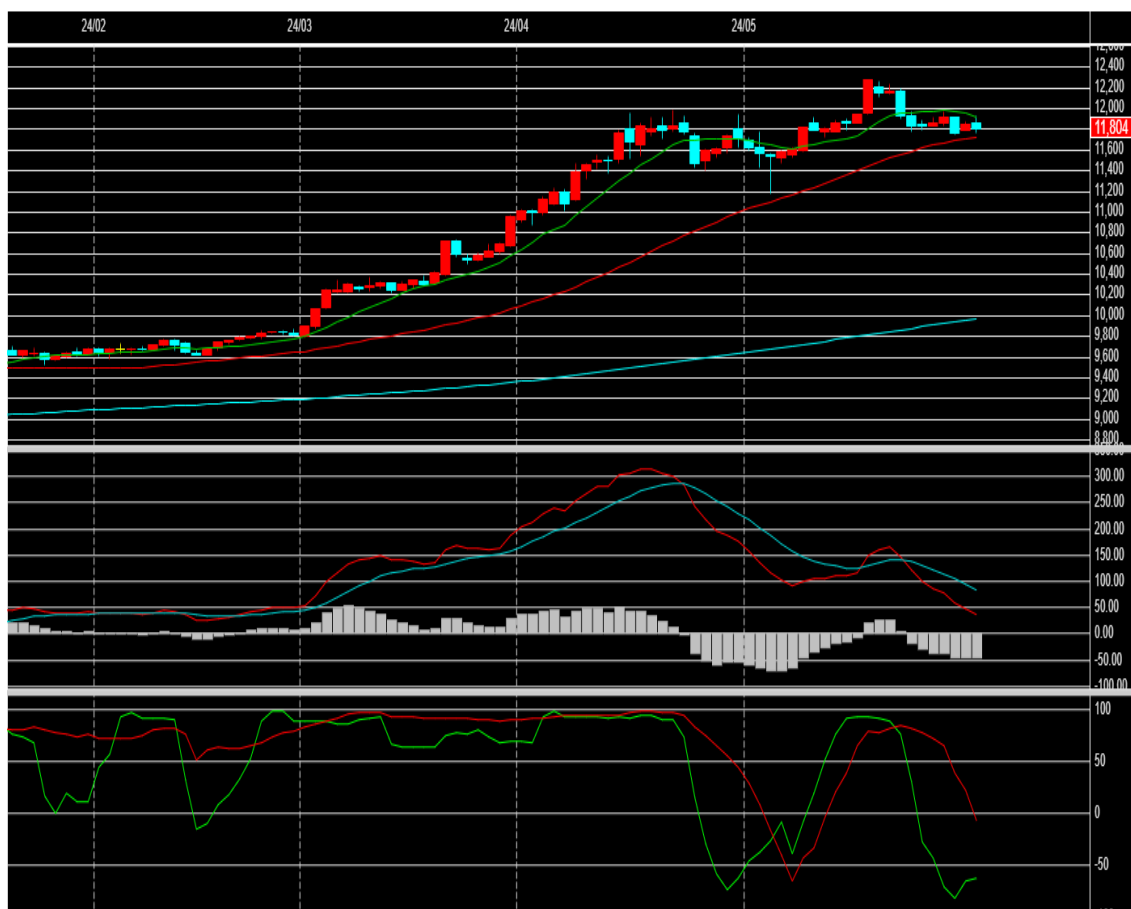


## <金標準、11800 円以下で下げ渋るか見極める時間帯・・・>



(出所：オアシス)

パレスチナ自治区ガザ南部のエジプトと国境を接しているラファ検問所でイスラエル軍とエジプト軍の交戦が行われ、ラファ中心部へのイスラエル軍の侵攻が確認され、地政学的なリスクの高まりを見せたが、しかしカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁は講演で「利上げを選択肢から排除した人はいない」と発言し、先週行われた2年債～7年債まで入札で不調に終わり、金利は上昇を見せている。週末には注目されたPCEデフレーターの記事では前月比で0.3%、前年比は2.7%、コア部門前年比で2.8%となるなど今年で最も低い伸びを見せているが、事前予想通りの結果に利益確定に押される動きを見せている。

特に円建て金標準先物は、円安効果を受けてNY金が軟調な動きを示すも11800円を維持するなど底堅い値動きを見せている。また今週は6月6日のECB理事会で政策金利を0.25%引き下げることが確実視されており、ユーロ建て金価格の上昇が強まる事を考えると、11800円以下で下げ渋る動きに注意するのが妥当に思える。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDはMACDが下げながら、シグナルも下げている。RSIでは短期が下げ止まり、中期は下げている事から基調は弱気を示唆したため、上昇している40日移動平均線の位置する11729円の抵抗帯に注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 6 月 3 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 6 月 3 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>